

学位論文審査結果の要旨

| | | | |
|---|---------------|------|-------|
| 博士課程 ①・乙 | 第 22 号 | 氏名 | 須藤 章 |
| 審査委員 | | 主査氏名 | 石田 康 |
| | | 副査氏名 | 柳井 博幸 |
| | | 副査氏名 | 三澤 尚明 |
| [論文題名] Media exposure, interactive health literacy, and adolescents' susceptibility to future smoking メディアの利用状況, 相互作用的健康リテラシーおよび青少年の将来の喫煙可能性 (International Journal of Adolescent Medicine and Health, in press) | | | |
| [要旨] これまで、青少年の喫煙可能性と機能的健康リテラシーおよび批判的健康リテラシーとの関係については種々の研究が報告されているが、相互作用的健康リテラシーとの関係についてはほとんど解析されていない。そこで本研究では、相互作用的健康リテラシーと青少年の将来の喫煙可能性との関連について調べることを目的とした。平成25年2月に無記名の自記式質問票によって、学年、性別、メディアの利用状況、相互作用的健康リテラシー(健康情報の収集への興味の高さ、健康情報の理解能力の高さ、健康情報の実践意欲の高さ)、および将来の喫煙可能性を自らどう考えるかについて調査した。欠損項目がある質問票は調査対象から除外し、メディアの利用状況および相互作用的健康リテラシーと将来の喫煙可能性との関連を重回帰分析により解析した。 本研究により以下の結果が得られた。1)メディアおよび雑誌を視聴あるいは利用する頻度が高い学生は、将来喫煙する可能性が高いと自ら考えていた。2)相互作用的健康リテラシーが高い学生は、将来喫煙する可能性が低いと自ら考えていた。3)相互作用的健康リテラシーは、メディアの利用状況よりもやや強く将来の喫煙可能性に影響していた。 結果から、メディアからの喫煙情報を制限し、相互作用的健康リテラシーを向上させることは将来の喫煙可能性を低下させうると考えられた。審査の結果、学位授与に値する論文であると判定した。 | | | |